

科目名	道徳教育の指導法			担当教員	河合 宣昌
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2EPG201
期待される学修成果	教科教育 態度				
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験	元校長、元全国小学校道徳教育研究会副会長				
実務経験を生かした授業内容	全国の道徳科の授業の指導の現状や子どもの実態をふまえた具体的な指導（模擬授業、指導案作成、体験的な学習等）				
到達目標及びテーマ	<到達目標>よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育の在り方を理解するとともに、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育とその要である道徳科の授業の実践的指導力を身につける。 <テーマ>道徳教育とは何か、道徳科の授業はどうあるべきか				
授業の概要	道徳教育及び道徳科についての文部科学省の考え<道徳科の特質や「考え、議論する」>を紹介しながら、小中学校での道徳科をどう構想し展開するかを具体的な実践をもとに、理解を深める。児童生徒に道徳を指導するためのスキルを身につけることとあわせて、私たちが教師として、人間として「道徳的に生きる」ことの意味について探っていきたい。				

授業計画	
第1回	道徳科になったのは（道徳教育の変遷）道徳教育と道徳科の目標 <教科書Q 1 ～Q3>
第2回	道徳教育及び道徳科の内容（学習指導要領に示されている内容） <教科書Q4～Q10>
第3回	道徳科の基本的な指導過程 <Q12～Q 2 0 >
第4回	模擬授業を通して道徳科の指導の理解 *授業設計
第5回	教材分析（いじめ、情報モラル等） <Q21～Q 2 8 >
第6回	導入と教材提示の工夫 <教科書Q29～Q40>
第7回	人間理解（多様な指導方法） 模擬授業 <教科書Q41～ q 62>
第8回	価値理解（多様な指導方法） 模擬授業 <教科書Q70～Q74 Q113～Q118>
第9回	道徳科のねらいの自己を見つめる <教科書Q75～Q96>
第10回	ねらいを明確にした学習活動と本時のねらいの書き方 <教科書Q11 Q111～Q130>
第11回	構造的な板書 模擬授業 <教科書Q63～Q69>
第12回	学習指導案の作成1（小学校）
第13回	学習指導案の作成2（中学校）
第14回	道徳教育の全体計画、道徳科の年間指導計画、道徳性の発達の理論とその応用
第15回	道徳科の評価のねらいと具体的な記述の理解 <教科書Q134～Q146>

事前学修	2時間	前回までに配付された資料や教科書を熟読し、授業の内容を理解しておく。また、課題レポート（学習指導案の作成、板書の作成）については、前回までの資料を参考にして前もって準備し、当日すぐ取りかかれるようにしておく。
------	-----	--

事後学修	2時間	与えられた資料や教科書を読み返すなどして、講義の内容をしっかりとつかむ。また、課せられたレポートについては、次回の講義の日までに提出できるようにしておく。
フィードバックの方法	毎回の講義の最後に、講義で学んだことをワークシートに記述させ、コメントを書いて返却する。これをもとに総合評価をする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	100%	講義のねらいにそって、具体的に記述されていたり、自分とのかかわりで記述されているか
定期試験	0%	定期試験は実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
知りたいことがきっとわかる 道徳教育Q & A	河合宣昌	日本文教出版	978-4-536-60105-4	授業で常時活用
参考資料	文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」 文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」			

科目名	道徳教育の指導法			担当教員	山田 貞二
単位	2単位	講義区分	講義	ナンバリング	ED2EPG201
期待される学修成果	教科教育 態度				
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験	教諭（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校での道徳授業での指導・助言や講演を生かし、道徳科の授業について講義をする。				
到達目標及びテーマ	<到達目標>よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育の在り方を理解するとともに、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育とその要である道徳科の授業の実践的指導力を身につける。 <テーマ>道徳教育とは何か、道徳科の授業はどうあるべきか				
授業の概要	道徳教育についてのさまざまな理論と実践を紹介しながら、小中学校での道徳科をどう構想し展開するか、という具体的な課題の探究すなわち指導計画の作成や指導方法を一方で、私たちの生き方との問題として道徳教育の意義や原理を他方で再考することを目的とする。児童生徒に道徳を指導するためのスキルを身につけることとあわせて、私たちが教師として、人間として「道徳的に生きる」ことの意味について探ってみたい。				

授業計画	
第1回	道徳が成り立つとき * 道徳とは何か
第2回	道徳教育とは何か * 道徳教育の目標と道徳科の目標 * 学習指導要領に示されている道徳科の内容
第3回	道徳性の発達をめぐって * 道徳性の発達の理論とその応用としてのモラル・ジレンマ授業 * ビアジェ、コールバーグ、デュルケーム理論から * カントやヘーゲルの考え方に対するディスカッション
第4回	道徳教育の歴史 * 特に学習指導要領の変遷 * 江戸時代以降の道徳教育と社会の変化
第5回	道徳教育の指導計画 * 道徳教育全体計画・年間指導計画・道徳科学習指導案と指導展開
第6回	体験授業～「考え、議論する道徳」授業の実際～ * 模擬授業および実際の授業動画から学ぶ
第7回	質の高い多様な指導法をめぐって * 主体的・対話的で深い学びとの関連 * 役割演技の実際 * ICT端末の活用について
第8回	学習指導案の作成・検討（１） * 典型的な学習指導案の構造
第9回	学習指導案の作成・検討（２） * 読み物教材「手品師」の教材分析 * 小集団に分かれての模擬授業準備（教材分析）
第10回	学習指導案の作成・検討（３） * 「手品師」を用いた道徳指導案の作成講義 * 小集団に分かれての模擬授業準備（指導案作成）
第11回	学習指導案の作成・検討（４） * 作成した指導案による模擬授業の実施 * 小集団による模擬授業演習（１）
第12回	学習指導案の作成・検討（５） * 小集団による模擬授業演習（２） * 模擬授業の振り返りと授業改善の視点
第13回	学習指導案の作成・検討（６） * 小集団による模擬授業演習（３） * 問題解決的な学習の実際
第14回	道徳教育に求められる評価 * 小集団による模擬授業演習（４） * 「成長を実感する」評価
第15回	現代社会の諸課題としての道徳教育 * いじめ、情報モラル等と道徳教育 * 道徳教育と学級経営、学校経営

事前学修	2時間	前回までに配付された資料や教科書を熟読し、授業の内容を理解しておく。また、課題レポート（学習指導案の作成、板書の作成）については、前回までの資料を参考にして前もって準備し、当日すぐ取りかかれるようにしておく。模擬授業の際には、指導案作成や掲示物の作成等を前もって準備を進める。
------	-----	--

事後学修	2時間	与えられた資料や教科書を読み返すなどして、講義の内容をしっかりとつかむ。また、課せられたレポートについては、次回の講義の日までに提出できるようにしておく。
フィードバックの方法	毎回の講義の最後に、講義で学んだことをワークシートに記述させ、コメントを書いて返却する。これをもとに総合評価をする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	50%	授業後の振り返りレポートにより授業の理解度を評価する。
上記以外の試験・平常点評価	50%	指導案等の授業内での課題や模擬授業についての評価をする。
定期試験	0%	
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」	文部科学省	東山書房	9784908255359	なし
文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」	文部科学省	東山書房	9784316300849	なし
「道徳の授業がうまくなる50の技」	山田貞二	明治図書	9784182934100	なし
参考資料	必要に応じて資料を配付する。			

科目名	道徳教育の指導法			担当教員	龍崎 忠
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2EPG201
期待される学修成果	教科教育 態度				
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験	教諭（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校での具体的な授業づくりについての指導・助言の経験を生かし、道徳性を育てることのよさについて受講者とともに検討する。				
到達目標及びテーマ	<到達目標> よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育の在り方を理解するとともに、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育とその要である道徳科の授業の実践的指導力を身につける。 <テーマ> 道徳教育とは何か、道徳科の授業はどうあるべきか				
授業の概要	道徳教育についてのさまざまな理論と実践を紹介しながら、小中学校での道徳科をどう構想し展開するか、という具体的な課題の探究を中心にして、私たちの生き方との問題として道徳教育を再考することを目的とする。児童生徒に道徳を指導するためのスキルを身につけることがこの授業での最大の目標ではあるけれども、あわせて私たちが「道徳的に生きる」ことの意味について探ってみたい。				

授業計画	
第1回	われわれにとって道徳教育とは何か(1)：道徳が成り立つとき
第2回	われわれにとって道徳教育とは何か(2)：道徳教育の目標と道徳科の目標
第3回	われわれにとって道徳教育とは何か(3)：個性伸長の授業から
第4回	学習指導の実際(1)：学習指導案とはなにか
第5回	学習指導の実際(2)：教材「手品師」を中心に(1)
第6回	学習指導の実際(3)：教材「手品師」を中心に(2)
第7回	学習指導の実際(4)：学習指導案の作成
第8回	学習指導の実際(5)：発問づくりと学習評価をめぐって
第9回	学習指導の実際(6)：指導計画をつくるということ
第10回	道徳教育の歴史(1)：戦前期の道徳教育
第11回	道徳教育の歴史(2)：戦後の「道徳の時間」の成立と道徳教育のこれから
第12回	道徳教育の理論(1)：価値の教育をめぐって
第13回	道徳教育の理論(2)：道徳性の発達とその応用としてのモラルジレンマ授業
第14回	道徳教育の理論(3)：ケアの倫理
第15回	現代社会の諸課題としての道徳教育：人権教育再考

事前学修	2時間	教科書の当該部分を読んでおき、うまく理解できないものをピックアップすること
事後学修	2時間	事前に理解できなかったものを再確認して、当該内容の理解を深めること
フィードバックの方法	リアクションペーパーについてはコメントを付して次回に返却する。内容に応じて全体でシェアする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	50%	毎回テーマに係るワークを交える
レポート	20%	中間期に学習指導案の作成を行う
レポート	30%	期末にレポートを実施する

定期試験		0%	期末試験については実施しない
補足事項	毎回のリアクションペーパー(学習状況、50%)、講義内で実際に作成する学習指導案(あるいは模擬授業、20%)、および期末レポート(30%)によって総合的に評価する。第2者である学習指導案の提出(と合格)を単位認定に係る要件とする。また随時道徳教育をめぐる自発的なレポートを提出することが歓迎され、それらも評価対象となることを申し添える。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領(H29告示) 解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき	4908255350	なし
参考資料	文部科学省『中学校学習指導要領(H29告示) 解説 特別の教科 道徳編』			